

日本経済新聞 2020年1月16日 地方版

群馬県、暑さに強いカイコを開発 7月から供給開始

北関東・信越

2020/1/15 18:05

群馬県は15日、蚕糸技術センター（前橋市）で開発したカイコの新品種の概要を発表した。日本種と中国種を交雑し、気温が35度を超える暑さでも健康に成育できるのが特徴。名称は「なつこ」とし、7月ごろから県内農家に供給を開始する。県内の養蚕農家の収益拡大につなげる考えだ。



新品種のカイコ「なつこ」

近年は夏に猛暑日が続く、県内農家ではカイコが成育不良になったり、繭の品質が低下したりするケースが増えているという。新品種開発は農家の要望を受け、2012年度から始めた。日本種原種「榛（しん）」と中国種原種「明（めい）」を交雑して開発した。蚕糸技術センターは19年夏、前橋市の養蚕農家で新品種の飼育試験を実施。カイコが健康に成育する適温は23～28度とされるが、新品種は35度を超す猛暑日が続く環境下でも健康に育った。19年9月に9番目の「群馬オリジナル蚕品種」として認定した。

山本一太知事は「群馬の絹糸は世界に発信できる大事なコンテンツだ。（新品種開発を機に）改めて県の養蚕業をPRしていきたい」と話した。